

海外研修日程 — カンボジア —

日時	プログラム	滞在先
7/30 (月)	関西空港発	
7/31 (火)	ホーチミン発	プノンペン
	プノンペン着	
	JICAカンボジア事務所訪問 JICAプラザカンボジア見学	
	市内見学・現地マーケット視察(教材収集) 船上より無償資金協力で建設された施設見学	
	振り返り	
8/1 (水)	カンボジア日本人材開発センター (CJCC) 視察 カンボジア大学生との文化交流	コンボン・チャム
	コンボンチャム州都視察・きずな橋視察 (無償資金協力)	
	振り返り	
8/2 (木)	地球環境修復保全機構ERECON訪問	コンボン・チャム
8/3 (金)	ワットポー小学校訪問	シェムリアップ
	JICAボランティア (教育行政) 活動視察	
	JICAボランティア (幼児教育) 活動視察	
	夜間の識字教室視察(日本ユネスコ協会)	
8/4 (土)	アンコールワット遺跡見学	シェムリアップ
	NGOクメール伝統織物研究所 (IKTT) 活動視察	
8/5 (日)	NGOクメール伝統織物研究所 (IKTT) 活動視察	シェムリアップ
	アキー・ラー地雷博物館見学	
	現地マーケット視察(教材収集)	
8/6 (月)	CMAC カンボジア地雷対策センター視察	プノンペン
	振り返り	
	シェムリアップ発	
	プノンペン着	
8/7 (火)	トゥールスレン虐殺博物館見学 生存者チム・メイ氏による講演	機中泊
	JICAカンボジア事務所報告会	
	プノンペン発	
8/8 (水)	関西空港着	

訪問先所感 ― カンボジア ―

7/31
(火)

JICA カンボジア事務所訪問・JICA プラザカンボジア見学

上下水道インフラ整備のおかげで、プノンペンの水道水は飲める水であり、さらには賞を受賞したという話が印象的だった。また、地雷除去が行われている範囲が地雷原の 15%ほどだということには驚いた。また、経済基盤の強化の一環として、現在建設中のネアックルン橋の模型で、その大きさを知ることができた。(金沢)



市内見学・現地マーケット視察（教材収集）

ラッキースーパーマーケットにて、カンボジア製品を探していたが、見つからない。見つかったと思っても本当に少しの製品のみだった。自国製品の少なさに驚いた。また、日本製品が多い。ボン酢やワサビまで置いてあった。(中嶋)



船上より無償資金協力で建設された施設見学

橋や洪水排水対策施設を見せってもらう中で、プノンペンの都市計画が気になった。各国の支援のもと開発が行われているが、各々の開発が上手くかみ合わない事例もあるようだ。都市計画法など定めた法令に従って政府が開発を指揮し切れない現状があることも知ることが出来た。(渡辺)



8/1
(水)

カンボジア日本人材開発センター（CJCC）視察と交流

学生の日本語レベルが驚くほど高い。貪欲な学ぶ姿勢・自分への自信、日本の高校生にはないパワーを感じた。将来カンボジアと日本の架け橋となる人材だろう。

途上国では優秀な人材が海外に流れがちであるが、卒業生には、国内で活躍する人が多いと聞いた。特に、ホテル事業を行う卒業生が sex tourism に反対の姿勢をとるなどし、国内の問題に目を向けていることが素晴らしい。(播本)



コンボンチャム州都視察・きずな橋視察（無償資金協力）

きずな橋は 500 リエル紙幣のデザインに採用されているぐらいカンボジアの人にとって大切なものとなっていることが分かった。

コンボンチャム州もカンボジアでは大きな都市と聞いたが、プノンペンとは比較にならない。いかにプノンペンに人が集中しているかがうかがえた。(伴)



8/2
(木)

地球環境修復保全機構 ERECON 訪問

「自立」をより意識した半日だった。小学校では、校長先生が「援助してもらっただけでなく、自分たちで継続していく。」と言われた。農家の人も、成功した人が他の人に指導して広げていた。私は以前、本で「カンボジア人の気質として、自分たちで継続する意欲・力が低い。」と読んだが、一概に決めつけてはいけない、とても失礼なことをしていたと反省した。ただ、今回は成功した例だったが、うまく進んでいない例もたくさんあるのでは、と振り返りの時間に話が挙がった。(石動)



8/3
(金)

ワットボー小学校訪問

まず、すばらしい音楽にわたしたちは胸を打たれた。そのあとの交流や、青年海外協力隊の派遣後もワットボー小学校で活動し続けている田中千草さんのお話で子どもたちにいろいろな家庭背景があることも聞かせていただき、感慨深かった。わたしたちの交流が無事に終わったことで安堵したとともに、田中さんがこちらに根付いて活動されていることを直接お聞きでき、その思いにふれることができ深く心に残っている。(吉川)



JICA ボランティア（教育行政／幼児教育）活動視察

教育省に赴き、シェムリアップの教育事情の説明を受けた。州の 20 代非識字率が 28% で、多くの村では半数の大人が非識字者であるということを知った。糸を紡いでクロマーを織っている工房や、牛の皮を叩いて飾りなどを作成しているお店も訪れた。JICA ボランティアの伊藤さん・徳富さんともに、生き生きとされているのが印象的であった。(金沢)



識字教室視察

戦闘が続いたことによりシェムリアップには学校へ行けなかった大人が多くいることがわかった。その結果、仕事に就けないなど苦労が多かったことがうかがえる。

ユネスコの支援のもと 8 か月指導を受けることができ、学ぶことの楽しさを体験できる貴重な機会になっている。子どもや大人関係なく学べる環境があるということは改めて大切なことだと感じた。

日本にも識字教育があるので通じる部分が多い。(伴)



8/4
(土)

アンコールワット遺跡見学

ヒンドゥー教の建物で内装は仏教。宗教も政治に大きく左右されてきたのだと語っていた。さらに、略奪や、射撃訓練の的とされた首のない仏像。ここにも内戦の痕を見ることができた。世界に誇れる歴史的建造物を、もっとカンボジアが有効活用できればと思う。(播本)



NGO クメール伝統織物研究所 (IKTT) 活動視察

地元の伝統を復興させ、雇用を作り、一つの村をしっかりと成立させている森本さんの取り組みに深い感銘を覚えた。大変息の長い支援になる可能性を感じ、「伝統を生かす」のも持続可能な開発の上で大切な視点であるだろうと思った。(渡辺)



8/5
(日)

NGO クメール伝統織物研究所（IKTT）活動視察

ここで植物を育てて・・・と材料にもこだわっておられるという理念と実際にこの森でそれに基づいた活動をされているのを見させていただき感動した。小学校も森でつくられ、子どもたちがこのコミュニティで学ぶことも保障されて生活しているというシステムができていることに驚いた。日本語を学ぶということが子どもたちの自立の一助になることを願う。（吉川）



アキー・ラー地雷博物館見学

数々の地雷が展示されていた。この中には日本製もあると聞いた。内戦は決して遠い国の出来事ではなく、日本にも関わりがあったことを、事実として子どもたちに伝えておくべきだと思った。（石動）



現地マーケット視察（教材収集）

オールドマーケット視察後、教材に使いそうな物を共有した。（例：昔の紙幣、カンボジア伝統音楽 CD、ハンモック、フェアトレード商品など）（石動）

8/6
(月)

CMAC カンボジア地雷対策センター見学

地雷除去の現場を自分の目で直接視察することができてとても有意義だった。説明を聞き、先導の方の足跡を踏み外さずについてくださいという言葉に緊張感が増した。広大な範囲を少しずつ文字通り炎天下の中作業される隊員の方々にただただ頭が下がる思いだった。

隊員の人たちの中には、自分たちが地雷を埋めることにもかかわっていたからカンボジアのために撤去しなければという義務感と、軍隊が解散し仕事がないからという非情な現実あることが分かり複雑な思いがした。（伴）

8/7
(火)

トゥールスレン虐殺博物館 生存者チム・メイ氏による講演

本来学びの場である高校が拷問の場に。ポルポト政権の拷問の残忍さに言葉もなかった。2万人のうちの7人の生存者の一人のチム・メイ氏がこのことを伝えるために、その辛い過去を話されていることに敬服した。彼の共に生きていこうというメッセージが胸に響いた。（寺西）



JICA カンボジア事務所報告会

あまりにたくさんのことを一度に、目にしたり聞いたり体験したりしているので、うまく自分の考えをまとめることはできなかったが、カンボジアと日本とのつながりを基本として、これからのカンボジアと日本関係にとっても関心が強くなった今回の研修だったと言える。8名それぞれが各々感じたことが違い、それもいい刺激になった。ぜひ互いの視点からもう一度カンボジアでの日々を振り返ってみたいと思った。（伴）



海外研修（カンボジア）に同行して

独立行政法人国際協力機構
関西国際センター（JICA 関西）
市民参加協力課 福田 佳奈

東南アジアに位置する小国カンボジア。この国は、日本で主に 2 つのことでよく知られているのではないのでしょうか。一つは世界遺産アンコールワット遺跡、そしてもう一つは負の歴史、ポルポト政権による大虐殺クメール・ルージュの歴史です。

今回の研修テーマは「持続可能な開発について考える。」研修前、参加される先生方も、観光地としてのカンボジアと内戦を経験した国としてのカンボジアのイメージを持っている方が多くいました。観光資源に頼ることは持続可能なのだろうか？内戦を経て、どのように復興していつているのか？数多く残る地雷への対応はどのようにになっているのか？数々の疑問が湧き、各々下調べを進めていきました。

また、海外研修前の国内研修では、カンボジアの子どもたちとの交流の準備として、長時間に渡る話し合いがなされました。国内研修中では時間が足りず、出発前および乗り継ぎの空港でも話し合いが行われました。

このように準備して臨んだ 10 日間の研修は、先生方にとって新たな気付きも多くあったようです。ぜひ先生方お一人お一人の報告書をご覧ください。



日本の専門家、NGO、JICAボランティアがカンボジア人と密接な関係を築きながら、きめ細かな支援をしている様子を見て、日本人が海外でいかに活躍しているのを感じていました。それとともに、相手のカンボジア人の懸命な様子に胸を打たれている先生方も多くいらっしゃいました。

カンボジア特有の歴史である、ポルポト政権のことと地雷除去について、衝撃的な写真もありましたが、負の歴史を乗り越えて目覚ましい成長を続けているカンボジアの活気もまた印象に残りました。

また、生存者のチム・メイ氏のお話を聞く、貴重な機会もありました。「日本の先生と話せて嬉しい。」チム・メイ氏の締め括りの言葉に、教師という職業を見つめ直し、教員としての誇りを確認した先生方もいました。

参加された先生方はみな一生懸命であり、現地での対応も柔軟であり、日本での実践授業にて生徒にたくさん還元していきました。

一つの国のことを理解するには時間がかかります。まだ消化しきれていない事柄もあるかもしれませんが、先生方には今後も研修で得たことを振り返りながら、世界の現状、世界の中の日本とあわせて途上国で活躍する日本人の様子を生徒たちに伝えていってほしいと思います。活躍する日本人の様子を聞いて、生徒たちもまた、将来、世界の中で活躍する一人となることを願うばかりです。



同行者より

海外研修（カンボジア）に同行して

独立行政法人国際協力機構
関西国際センター（JICA 関西）
国際協力推進員 大阪市担当 中西 真実

日本は長年にわたり、カンボジアへの資金協力第 1 位だったこともあり、たくさんの JICA 事業を展開しています。

そのため、今回の研修内容は随分密度の濃い充実したものでした。毎日毎日、カンボジアの直面している課題と向き合う連続で、先生方にとってかなりハードな 10 日間だったことでしょう。

カンボジアの抱える様々な課題を我が事として真摯に受止める先生、見るもの聞くこと好奇心全開でキラキラした目で質問攻めにする先生、静かだが自身の持ち帰りたい学びについては妥協しない先生、芸事に長け、子どもたちの人気者だった先生、カンボジア人に少しでも近づこうとファッションからカンボジアを取り入れた先生、日本からクラスの子どもが折った折り紙を持参してくれた先生、ボディランゲージを駆使して誰よりも子どもと分かり合える先生、フェアトレードのお店を調べてくださったり、たくさんの情報を提供してくれた先生。

こんな素敵な先生方と同行させて頂き、間近で学びを共有できたことは、私自身にとっても大きな学びになりました。



先生自身が企画した現地での交流授業も決してスムーズに進んだわけではありませんでした。現地をよく知り活動している方のアドバイスを受けて 2 転 3 転、しました。現地での暮らしや課題を実際に見た後、カンボジアについて理解を深めるのと同時に、授業の内容や組立てが変わることは自然な流れだったのでしょか……。先生からは変わったことに意義があるという意見もでした。

また、カンボジアで訪問先の方々が、学校の先生がカンボジアについて知ることの意義や素晴らしさについて口をそろえておっしゃったのが印象的でした。先生が知り、そして子どもたちに伝えることで、たくさんの子どもたちがカンボジアの抱える課題について知ることができる、だからあなたたちの仕事は素晴らしいと……。

カンボジアでの研修を受入れてくださった方々からのバトンをつないで未来を担う子どもたちに伝えていく。先生方の実践授業を通して、少しでも多くの人たちにカンボジアについて知っていただけることをカンボジアの人々と共に心より願っています。

オークンチュラン（クメール語で“ありがとう”）

